

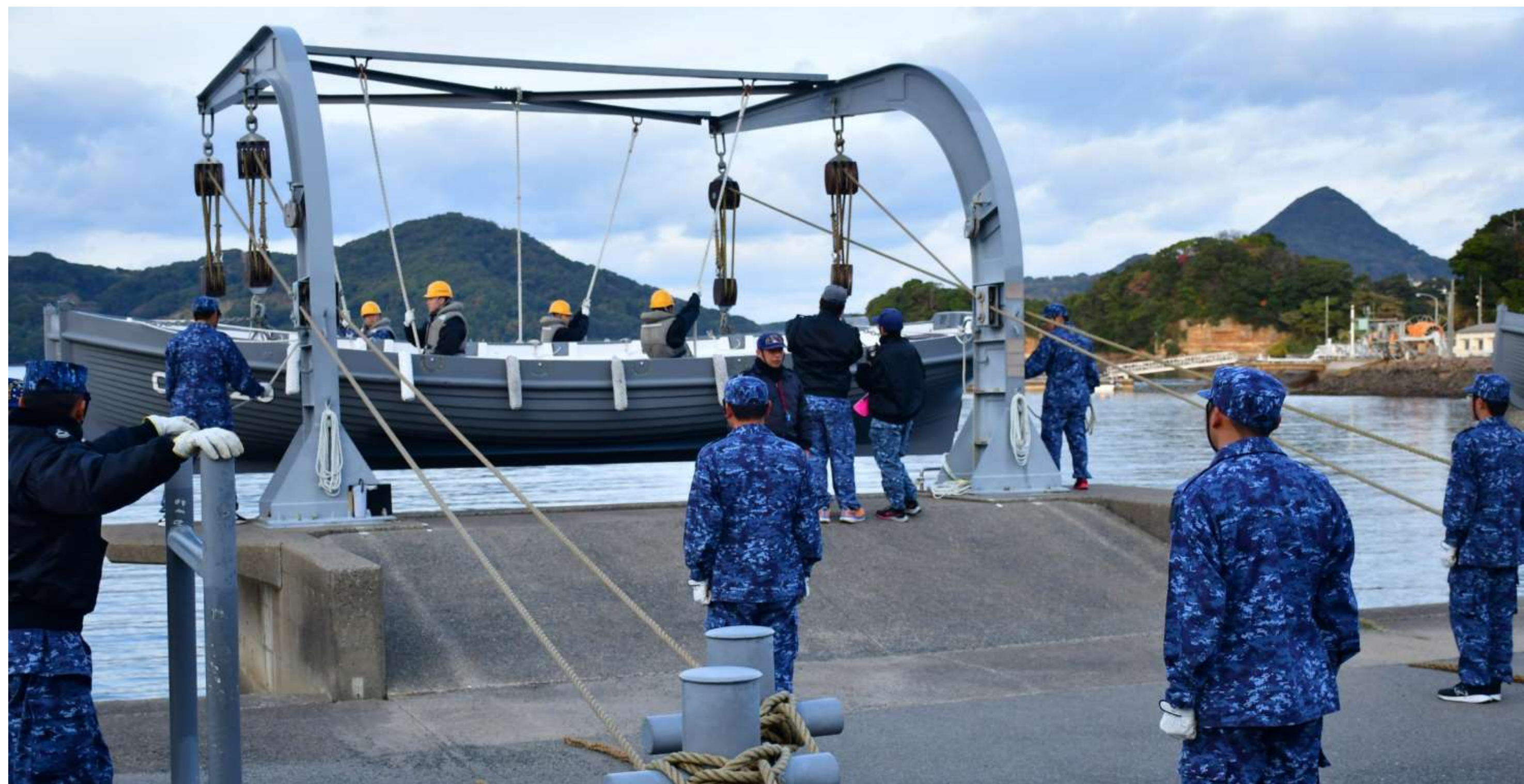


短艇



短艇とはカッターとも呼ばれ、かつては艦艇が岸壁に接岸できない場合の人や物資の運搬、遭難者の救助や緊急時の救命艇として使われていました。近年では短艇からエンジンのついた機動艇に替わりましたが、基本において変わるところはなく、短艇は人力と自然を利用する以外、頼るべきものがないだけに、経験と基礎知識が必要になります。

短艇教務を通じ、船乗りとしての基礎知識を身につけると共に、揚げ降ろし、艇を漕ぐ際は力を合わせて行わなければならないため団結力も高めることができます。



短艇は通常、ダビットと呼ばれる鋼鉄でできたアーム状の装置に吊るされており、使用の都度、揚げ降ろしします。短艇は重量もあり、揚げ降ろしの際も強い力がかかるため、短艇を漕ぐ訓練をする前にまずは、揚降作業を安全に実施できるようになる必要があります。また、海上にいる時は

波の力や艇の動きがあり、号令どおりに動けなかったり、動作が緩慢だと事故に至る可能性もあるため、集中して作業に臨まなければなりません。



揚げ降ろしの際はストッパーという道具を使って艇が落ちるのを防ぎます。初めて見た時は、「こんなのでちゃんと止まるの？」と思いましたが、正しくかければちゃんと止まります。この状態で索(ロープ)を解き（揚収の際は巻く）ます。





短艇の重量は約1.5 tですが、滑車を使うことにより、短艇索1本にかかる重さは計算上おおよそ10分の1（約150 kg）になります。

（実際は艇内に搭載する物品や艇内作業員の重さも加わり、さらに索と滑車等の摩擦による抵抗もあるため、計算上より少し重くなります。）

降下の際は索とビットの摩擦を利用しながら降ろすことができるので、少人数で対応可能です。揚収の際は前後片側十名程度で安全に短艇を揚収可能です。人数が確保できる場合はそれより多い人数でより安全に揚げます。





安全に揚降作業ができるようになったら次は、とう漕法（漕ぎ方）です。櫂（かい）の持ち方、海面への入れ方、抜き方、櫂の角度など様々な動作を正しく連動させることによって上手く漕げるようになります。また、短艇は一人で漕ぐわけではないので、息を合わせて漕ぐということも重要です。「いーちに！」と掛け声をかけて仲間と心を一つにして漕がなければ、早く進むことはできないのです。もちろん体力と根性がまず必要であることは言うまでもありません。







初めは上手く漕げませんが、訓練を積み重ねていくことで段々と上達して体の使い方もタイミングの合わせ方も分かってくると、自分達でも、「漕げてるぞ〜」という感じがして楽しくなってきます。





短艇競技が近づいてくる頃には、慣れてきてガンガン漕げるようになります。抵抗になる物を海に入れて引っ張って漕いでいる艇もありました。私もバケツを引っ張った記憶がありますが、たかがバケツ一個で思いのほかキツかったという思い出があります。訓練でしんどい思いをした成果が競技本番で発揮されるといいですね。